

お問い合せ[美濃中山道連合]

中津川市観光課	〒508-0032　中津川市栄町1-1　にぎわいプラザ2階
	TEL. 0573-66-1111　FAX. 0573-65-3367
URL https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/kanko/	E-mail kankou@city.nakatsugawa.lg.jp
恵那市観光交流課	〒509-7292　恵那市長島町正家1-1-1
	TEL. 0573-26-2111　FAX. 0573-26-2861
URL https://www.city.ena.lg.jp/	E-mail kankokoryu@city.ena.lg.jp
瑞浪市商工観光課	〒509-6195　瑞浪市上平町1-1
	TEL. 0572-68-2111　FAX. 0572-68-9862
URL https://www.city.mizunami.lg.jp/	E-mail shoko@city.mizunami.lg.jp
御嵩町まちづくり課	〒505-0192　可児郡御嵩町御嵩1239-1
	TEL. 0574-67-2111　FAX. 0574-67-1999
URL https://www.town.mitake.lg.jp/	E-mail kankou@town.mitake.lg.jp
可児市観光政策課	〒509-0292　可児市広見1-1
	TEL. 0574-62-1111　FAX. 0574-63-4754
URL https://www.city.kani.lg.jp/	E-mail kankou@city.kani.lg.jp
美濃加茂市商工観光課	〒505-8606　美濃加茂市太田町3431-1
	TEL. 0574-25-2111　FAX. 0574-27-3863
URL https://www.city.minokamo.lg.jp/	E-mail shokan@city.minokamo.lg.jp
各務原市中山道鵜沼宿町屋館	〒509-0132　各務原市鵜沼西町1-116-3
	TEL. 058-379-5055　FAX. 058-379-5055
URL https://www.city.kakamigahara.lg.jp/kankobunka/1010039/unuma/index.html	E-mail machiyakan@city.kakamigahara.gifu.jp
岐阜市観光コンベンション課	〒500-8701　岐阜市司町40-1
	TEL. 058-265-3984　FAX. 058-214-2440
URL https://www.city.gifu.lg.jp/	E-mail kankou@city.gifu.gifu.jp
瑞穂市商工農政観光課	〒501-0392　瑞穂市宮田300-2
	TEL. 058-327-2103　FAX. 058-327-2112
URL https://www.city.mizuho.lg.jp/	E-mail syoukounou@city.mizuho.lg.jp
大垣市商工観光課	〒503-8601　大垣市丸の内2-29
	TEL. 0584-47-8597　FAX. 0584-81-4899
URL https://www.city.ogaki.lg.jp/	E-mail syoukoukankouka@city.ogaki.lg.jp
垂井町産業課	〒503-2193　不破郡垂井町宮代2957-11
	TEL. 0584-22-1151　FAX. 0584-22-5180
URL https://www.town.tarui.lg.jp/	E-mail sangyo@town.tarui.lg.jp
関ケ原町地域振興課	〒503-1592　不破郡関ケ原町大字関ケ原894-58
	TEL. 0584-43-1111　FAX. 0584-43-2120
URL https://www.town.sekigahara.gifu.jp/	E-mail chiikishinko@town.sekigahara.gifu.jp

太田宿中山道会館 （㈱三和サービス）	〒505-0042　美濃加茂市太田本町3-3-31　太田宿中山道会館
	TEL. 0574-23-2200　FAX. 0574-23-2201
URL https://www.group-sanwa.co.jp/ootajuku/	E-mail ootajuku@group-sanwa.co.jp
中山道加納宿文化保存会	〒501-2101　山県市大桑2825番地1
	TEL. 0581-27-2156（西村覺良）
武並地区中山道保存会	〒509-7122　恵那市武並町竹折1059-36
	TEL. 0573-28-2427（武並コミュニティセンター内）

不許複製：いかなる方法においても複写、複製を禁ず。

R8.11（第18版）

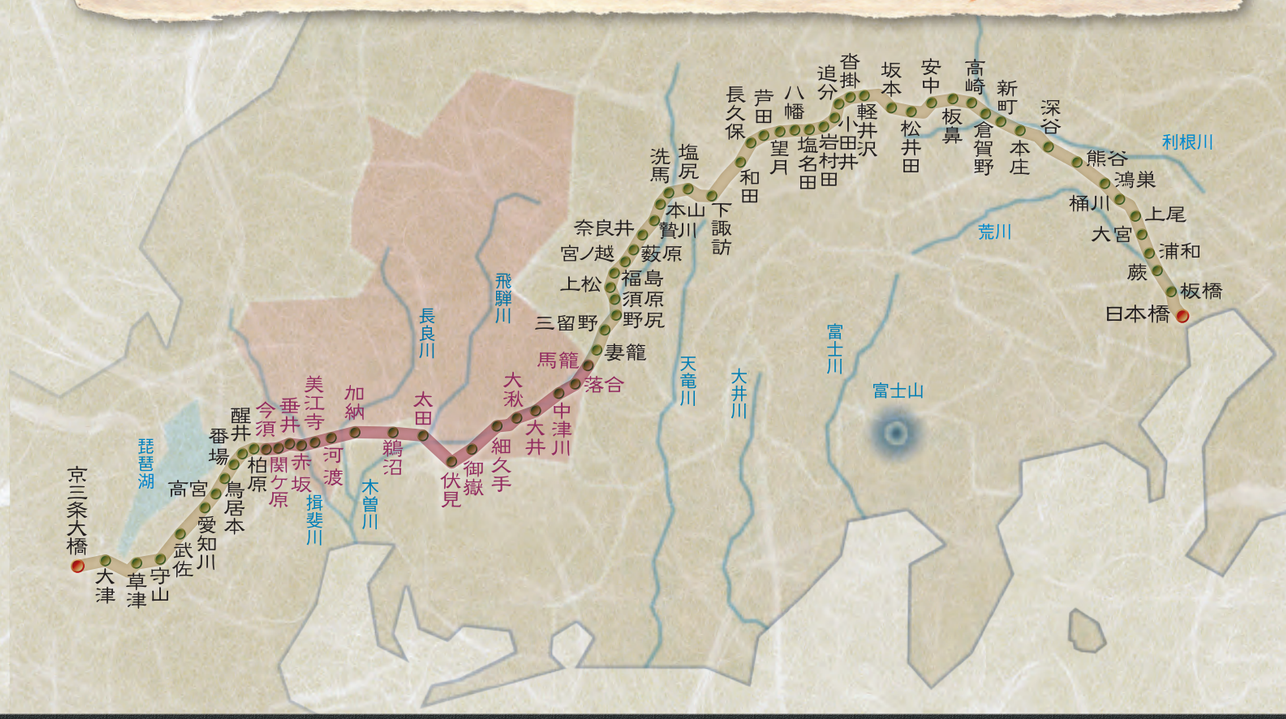
中山道の歴史

中山道は、その前身を東山道と呼び、西と東を結ぶ重要な街道でした。（現在、県内各地に残る古代寺院祭祀跡などの遺跡がその一端を示しています。）

東山道という名称は古くは近江、美濃、飛騨、信濃、武蔵、下野、上野、陸奥の8国を示した行政区画名に由来し、当初は東山道の駅路と呼ばれていたと考えられます。東山道は、整備が順調に進んだ東海道と比較され、裏街道的な存在として扱われていきます。やがて戦国時代に入り宿駅が街道沿いに設けられ、慶長五年（1600年）、関ケ原の合戦において天下をとった徳川家康が、全国の道路整備に着手します。翌年東海道の巡視が行われ、東海道五十三次が定められたのを契機に、東山道改め「中山道」「甲州道中」「奥州道中」など幕府直轄の街道が定められ、さらに万治二年（1659年）には、日光道中を含めた五街道が整備されました。この五街道（〈東海道〉〈中山道〉〈甲州街道〉〈奥州街道〉〈日光街道〉）の中でも「東海道」と「中山道」は江戸と京を結ぶ重要幹線として機能しました。川を渡ることが多く、天候によって支障がおきる東海道と違い、中山道は女性を含めた多くの旅人の往来に好まれたといいます。

名称の由来は、日本国土の中間の山道ということで中仙道とも記されましたが1716年、徳川幕府は中仙道を中山道と名称を統一しました。

江戸の日本橋から埼玉県、群馬県、長野県を経て、岐阜県、滋賀県、京都を結ぶ中山道は、江戸時代の主要道五街道の中でも最も長く、六十九の宿場があります。善光寺詣り、熱田さん詣り、伊勢詣りなど参拝のルートとしても栄え、同時に京から江戸へは公家の姫君が将軍に降嫁するルートとしても頻繁に利用されました。華やかな都から山奥を抜けて江戸に行く道すがらには姫君の痕跡も多く、別名〝姫街道〟とも呼ばれています。



岐阜県を通る中山道

木曽路「馬籠」から
美濃路「十六宿」

江戸日本橋から京都三条大橋まで六十九宿「百三十五里二十四町八間（約五百三十二キロ）」。この中山道の四分の一相当（約百二十八キロ）が美濃国、つまり岐阜県です。

十六の宿場を持つ美濃中山道は山間を通る道程で、木々や渓谷に四季折々の自然の美しさがある街道です。中でも、当時の景観を比較的残しているのが、中津川宿～太田宿間。

また平成十七年二月に岐阜県中津川市に編入となった木曽路馬籠宿は、景観を保存した観光地として賑わいをみせています。



垂井宿 タルイピアセンター



〒503-2121 岐阜県不破郡垂井町2443-1
tel. 0584-23-3746
fax.0584-23-3745
URL https://www.town.tarui.lg.jp/soshiki/18/

鵜沼宿 中山道鵜沼宿町屋館



〒509-0132
岐阜県各務原市鵜沼西町1-116-3
tel/fax.058-379-5055
URL https://www.city.kakamigahara.lg.jp/kankobunka/1010039/unuma/index.html

太田宿 太田宿中山道会館



〒505-0042
岐阜県美濃加茂市太田本町3-3-31
tel. 0574-23-2200 fax.0574-23-2201
URL https://www.group-sanwa.co.jp/ootajuku/

御嶽宿 中山道みたけ館



〒505-0116
岐阜県可児郡御嵩町御嵩1389-1
tel. 0574-67-7500 fax.0574-68-0005
URL https://www.town.mitake.lg.jp/event/mitakekan-kyodo/

大井宿 中山道広重美術館



〒509-7201
岐阜県恵那市大井町176-1
tel. 0573-20-0522
fax.0573-25-0322
URL https://hiroshige-ena.jp
このパンフレットに使用している「木曽海道六拾九次之内」（渓斎英泉・歌川広重:作）の浮世絵は、中山道広重美術館の協力によるものです。

馬籠宿 藤村記念館



〒508-0502
岐阜県中津川市馬籠4256-1
tel. 0573-69-2047
fax.0573-69-2231
URL http://toson.jp/

中津川宿 中山道歴史資料館



〒508-0041
岐阜県中津川市本町2-2-21
tel. 0573-66-6888
fax.0573-66-7021
URL https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/museum/n/

祭・イベント一覧

伝統を感じ、新しさを感じ、
四季折々に賑わいをみせる
美濃路の祭りは人々の暮らしと溶け込み、
輝きを放ちます。

中津川市			恵那市		瑞浪市	御嵩町		可児市		美濃加茂市
毎月第一日曜（一月を除く）	二月上旬	八月十二日・十三日	一月七日	二月下旬	九月第四土曜・日曜	十月第一日曜	四月第一日曜	三月二十八日	四月第一日曜	十月下旬
中山道 中津川宿「六斎市」	氷雪の灯まつり	中津川夏まつり「おいでん祭」	市神神社例祭（七日市）	恵那市伝統芸能大会	みのじのみのり祭	神明・白山神社例大祭	御嵩薬師祭礼	よってりゃあみたけ～夢いろ街道宿場まつり～	白鬚神社流鏑馬祭	お祭 MINOKAMO 太田宿中山道まつり
十一月上旬	二月上旬	八月十二日・十三日	一月七日	二月下旬	九月第四土曜・日曜	十月第一日曜	四月第一日曜	十月第三土曜	四月第一日曜	十月下旬
三宿街道祭り	氷雪の灯まつり	中津川夏まつり「おいでん祭」	市神神社例祭（七日市）	恵那市伝統芸能大会	みのじのみのり祭	神明・白山神社例大祭	御嵩薬師祭礼	よってりゃあみたけ～夢いろ街道宿場まつり～	白鬚神社流鏑馬祭	お祭 MINOKAMO 太田宿中山道まつり

●中津川市 中津川夏まつり「おいでん祭」〈8月13日（本まつり）〉


●関ケ原町 関ケ原まつり〈10月第1土曜〉


●垂井町 垂井曳軸まつり〈5月2日～4日〉


●大垣市 中山道赤坂宿まつり〈11月上旬〉


●瑞穂市 美江寺観世音お蚕まつり〈3月第1日曜〉


●岐阜市 加納天満宮天神まつり〈10月下旬〉


●各務原市 中山道鵜沼宿まつり〈10月下旬もしくは11月〉


●美濃加茂市 お祭 MINOKAMO（太田宿 中山道まつり）〈10月下旬〉


●可児市 白鬚神社流鏑馬祭〈4月第1日曜〉


●御嵩町 よってりゃあみたけ～夢いろ街道宿場まつり～〈10月第3土曜〉


●瑞浪市 神明・白山神社例大祭〈10月第1日曜〉


●恵那市 恵那市伝統芸能大会〈2月下旬〉

各務原市	岐阜市		瑞穂市				大垣市		垂井町			関ケ原町	
十月下旬もしくは十一月	十月下旬	二月三日	三月第一日曜	四月最終日曜	十月中旬	十月二十六日	四月第二日曜	十一月上旬	五月二日～四日	五月四日・五日	十月第一日曜	十月第二土曜	十月中旬
中山道鵜沼宿まつり	加納天満宮天神まつり	節分つり込み祭（玉性院）	美江寺観世音お蚕まつり	和宮春の例祭	美江寺宿場まつり	和宮秋の例祭	赤坂まつり	中山道赤坂宿まつり	垂井曳軸まつり	南宮大社例大祭	表佐太鼓踊り	関ケ原まつり	関ケ原合戦祭り
十月下旬もしくは十一月	十月下旬	二月三日	三月第一日曜	四月最終日曜	十月中旬	十月二十六日	四月第二日曜	十一月上旬	五月二日～四日	五月四日・五日	十月第一日曜	十月第二土曜	十月中旬

木 曽路最後の宿場〈馬籠宿〉。



1 渓斎英泉の浮世絵「馬籠驛峠ヨリ遠望之図」

長野県境から馬籠宿へ

馬籠峠を越えて中山道は長野県から岐阜県に入ります。平成十七年二月の市町村合併により長野県山口村が中津川市に越県合併したことにより、馬籠宿は岐阜県に入って最初の宿場となりました。馬籠峠から馬籠宿の間にある峠の集落は、かつて半方（牛による輸送）に従事していた家が多く、その面影を残す家並みが続きます。素朴で味わい深い風景を楽しみながら進むと、今でも宿場の風情が色濃く残る「馬籠宿」へと続きます。

1 馬籠峠　2 峠の集落　3 十返舎一九歌碑

馬籠宿

中山道四十三番目の宿場となる馬籠宿は木曽十一宿の最南端、眼下には美濃の国を眺望できる所にあります。馬籠宿は急峻な坂道の宿場で、明治、大正の大火で江戸時代の建物の多くは焼失したものの、住民が一丸となって町並み保存に力を入れ昔の町並みを再現しています。

明治の文豪・島崎藤村の生誕地で、小説「夜明け前」には明治維新期の馬籠、中津川の様子が描かれています。藤村記念館は、藤村自らの要望により幼少期を過ごした本陣跡に建てられ、江戸時代の建物である本陣の隠居所が当時の姿を伝えています。

4 高札場　5 馬籠脇本陣史料館　6 藤村記念館　7 永昌寺　8 清水屋資料館　9 馬籠宿 車坂の「桝形」

藤 村筆「是より北 木曽路」の石碑の前にある、新茶屋の一里塚。



歌川広重の浮世絵「落合」

馬籠宿から落合宿へ

馬籠宿との境に、島崎藤村筆「是より北　木曽路」の石碑と「新茶屋の一里塚」があります。ここが、中山道美濃路の始まりとなります。

ここから落合宿までの区間には、勾配がきつく、その昔難所のひとつと言われていた十曲峠があり、その中には、国の史跡に指定された「落合の石畳」があります。この区間は、昔の面影を偲びつつ散策できます。

峠を下った先の落合川に架かる「下桁橋」の前身は、落合（大）橋とよばれていたとみられ歌川広重の浮世絵「木曽街道六拾九次内　落合」にも描かれています。この橋を渡ると「落合宿」へと入っていきます。

10 馬籠城跡（丸山城）　11 正岡子規の句碑（サンセットポイント）　12 是より北 木曽路の碑　1 新茶屋の一里塚　13 落合の石畳　14 かねいり場馬頭観音　15 山中薬師の石碑群　16 山中の馬頭観音　17 下桁橋

落合宿

落合宿は、江戸の日本橋から数えて四十四番目の宿場です。宿の中央部にある本陣は、江戸時代の門・建物・園路が残っており、中山道全域を通じても極めて数少ない例です。

18 滝場の道標・馬頭観音　19 滝場の馬頭観音　20 上町常夜灯　21 落合宿の本陣　22 善昌寺の名号碑　23 下町角道標　24 落合宿高札場

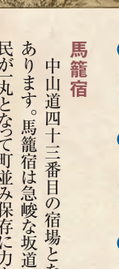
落合宿から中津川宿へ

この区間では、何度か国道十九号で中山道がさえぎられています。

現在でも「おがらんさま」と親しまれている「落合五郎兼行之城跡」や「子野の一里塚」の碑、御嶽開山の行者を記念して「覚明霊神」を祀った「覚明神社」、徳本上人の念仏碑等がある子野の「とっこんさん」、そして中津川の街がよく見える「旭ケ丘公園」等があります。

中津高校の前の坂を下り、茶屋坂を下りていくと「中津川宿」です。

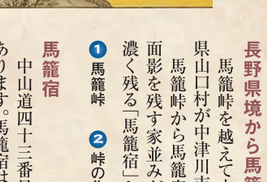
25 向町の馬頭観音　26 落合五郎兼行之城跡　27 杉松稲荷大明神　28 天狗党水戸浪士 熊谷三郎の墓　29 子野の馬頭観音　30 覚明霊神　2 子野の一里塚跡　31 子野のとっこんさん（徳本様）　32 上金の秋葉権現　33 旭ケ丘公園



21

13

12



馬籠宿



凡例

中山道		浮世絵地点	
高速道路		一里塚	
国道		その他の遺構等	
県道		駐車場	
		トイレ	

宿間距離
車両通行不能区間
道路種別 ■:国道 ■:県道 □:市町村道
市町村延長
☆ 散策した所に色を塗りましょう

中 津川宿の古い街並みや、たくさんの野仏たちがやさしく迎えてくれます。



歌川広重の浮世絵「中津川」（雨）



2 歌川広重の浮世絵「大井」

中津川宿

復元された茶屋坂の高札場を過ぎると「中津川宿」です。木曽路の玄関口としても栄え、特に本町あたりは街道情緒をよく伝えています。

東濃地方随一の商業の町として栄えた中津川宿の町並みには「うだつ」が残ります。うだつは防火用または身分の象徴とも言われ、裕福な家にしか設けられなかったことから、「うだつがあがらない」はここから生まれた言葉だと言われています。

宿場ではかつて三と八の付く日に「六斎市」と呼ばれる市が開かれていました。現在は復活した六斎市が毎月第一日曜日に開催されています。

また、宿場内の道は鍵の手に曲がっていて、いわゆる〝桝形〟を形造っています。これは軍事上の必要からとも客止めの策からとも言われています。

34 茶屋坂の高札場と常夜灯　35 中山道歴史資料館／中津町の郷蔵跡　36 恵奈山道標　37 うだつのある街並み

中津川宿から大井宿へ

この区間は多少幅広めに舗装されていますが、ほぼ旧中山道の面影を残している区間と言えます。

中央自動車道の中津川インターチェンジの付近は、地域開発などにより中山道が一部現存していない区間があります。

このほか、ひとつの胴に男女の頭がある珍しい石像の「双頭一身道祖神」や「上宿の一里塚」、「石灯篭のような形の珍しい「六地蔵」「三津屋の一里塚跡」「関戸の一里塚跡」などがあります。

また、恵那市に入ると甚平坂のところに、県が沿道修景事業で施工した「甚平坂公園」があります。この公園の中には、歌川広重の「木曽海道六拾九次之内　大井」を描いた現代の石碑があります。

38 石屋坂の名号碑　39 双頭一身道祖神　40 会所沢の石碑　41 六地蔵　42 上宿の一里塚　43 中平の常夜灯　44 中平のじゅん天様　45 かじや平の石仏群　46 三津屋の将監塚　47 三津屋の馬頭観音　48 茄子川の常夜灯　49 茄子川の地蔵　4 三津屋の一里塚跡　50 岡瀬沢の馬頭観音　51 岡瀬沢の常夜灯　52 甚平坂公園　53 関戸宝篋印塔　54 長石塔　55 上宿の石仏群　5 関戸の一里塚跡



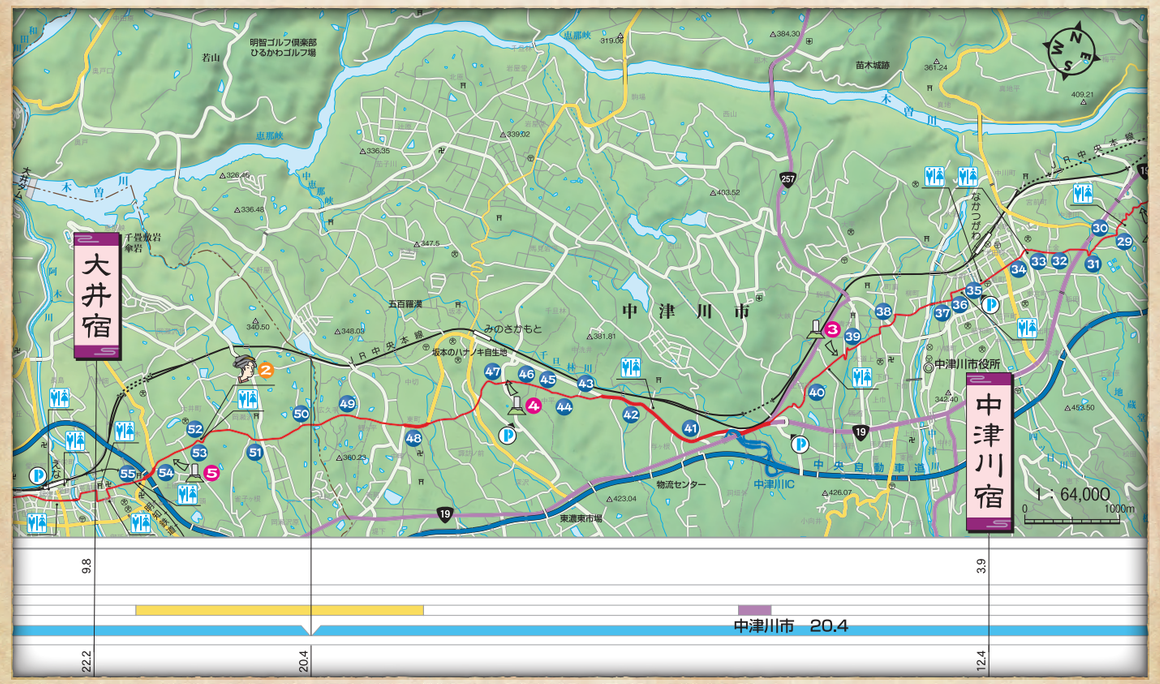
52



37



歌川広重の浮世絵「中津川」



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図及び数値地図50mメッシュ（標高）を使用した。（承認番号　平25情使、第355号）」

大 名行列も、旅人の息も裾も乱れる「みだれ坂」。十三峠を進みます。


57


69

大井宿

大井宿は、美濃十七宿中でも大いに繁盛した宿場で、本陣門、旅籠、商家など昔の面影を残す建物も残っています。宿内を通る中山道は、昔どおりの長さ、幅で中山道随一といわれる六カ所もの升形が残っています。

駅前通りに位置する中山道広重美術館では、渓斎英泉・歌川広重の「木曽海道六拾九次之内」揃物をはじめ広重の浮世絵を中心に所蔵・展示。また浮世絵が楽しく学べるナビルームでは、模擬版木を使った重ね摺りが体験できます。

56 昆沙門天の燈篭　57 大井宿の本陣跡
58 大井宿の家並み／中山道ひし屋資料館 明治天皇大井行在所
59 中山道広重美術館

大井宿から大湫宿へ

この区間は、街道が全体的に往時の面影を残している区間であり、また未舗装のままの区間もかなり残っています。特にこの未舗装区間は、文化庁の歴史の道整備事業で修理等されており、当時の中山道がそのままの状態で保存されています。

「西行塚」「槙ケ根の一里塚（眺めが素晴らしい）」「祝峠（姫御殿跡）（見晴しが良く、馬籠まで見えたと伝う）」「みだれ坂（大名行列の列も乱れたう）」「紅坂の一里塚」「ぼたん岩（石畳の中にある直径五メートルほどの岩）」「深萱立場跡」「権現山の一里塚（江戸へちょうど九十里）」「尻冷やし地蔵」など遺構や見所も多く、ここから御嶽宿の手前までは、東海自然歩道もほぼ同じコースを通っています。十三峠という難所が大半を占めており、歩きごたえもある区間です。

60 中野の観音堂　61 新田の観音堂　62 西行硯水公園
63 西行坂の馬頭観音　64 伝西行塚　6 槙ケ根の一里塚
65 槙ケ根立場跡　66 槙ケ根の追分と道標　67 祝峠（姫御殿跡）
68 首なし地蔵　69 みだれ坂（みだれ橋）　70 久須見村境の妻神
7 紅坂の一里塚　71 ぼたん岩　72 三社灯籠
73 佐倉宗五郎大明神　74 藤村高札場（修景）　75 深萱立場本陣跡
76 大久後立場跡　77 炭焼立場跡　8 権現山の一里塚
78 順礼水と石畳　79 曽根松坂の並木松　80 三十三所観音
81 尻冷やし地蔵　82 しゃれこ坂の名号碑　83 宗昌寺の女人講碑




59



中 山道美濃路の最高所である琵琶峠で、七三〇メートル余の石畳を歩く。


3 歌川広重の浮世絵「大久手」


4 歌川広重の浮世絵「細久手」

大湫

江戸日本橋から数えて四十七番目の宿で、今は奥深い山の中にひっそりと佇んでいます。宿内では格子戸の家並みが残り、往時の風情が伝わってきます。国登録有形文化財で行家住宅は、往時の雰囲気を残したまま中山道観光案内所として活用されており、「丸森」という愛称で多くの方に親しまれています。また、樹齢六百七十年を誇った神明神社の大杉は令和二年七月に倒れてしまいましたが、モニュメントとして蘇り、現在も来訪者を見守り続けています。

84 大湫宿の本陣跡　85 大湫宿の脇本陣 保々家（国登録有形文化財）
86 旧森川善章家住宅（国登録有形文化財）　87 大湫観音堂
88 旧森川訓行家住宅（国登録有形文化財）

大湫宿から細久手宿へ

この区間の見所は、何といっても大湫宿の西から八瀬沢立場跡までの「琵琶峠」。車の通らない区間であり、木曽路名所図会にも記された名所です。また、中山道美濃路の最高所の峠で、頂上付近には八瀬沢一里塚も残り、約七百メートルにわたって「琵琶峠の石畳」が復元整備されています。

このほかにも「弁天池」や江戸へ九十二里、京都へ四十二里の「奥之田の一里塚」など、道路は舗装されていますが往時を偲ばせます。

89 母衣岩・鳥帽子岩　90 琵琶峠の石畳　9 八瀬沢の一里塚
91 八瀬沢立場跡　92 弁天池　93 女男松の跡
10 奥之田の一里塚


90


88

細久手宿

大湫宿と同じように、奥深い山の中でひなびた風情が漂っています。厄除けに造られた「庚申堂」には、三百年の歳月を経た石造物があり、また老舗の暖簾を誇る「大黒屋」は、尾州徳川家の「定本陣」で、今も百六十年前と変わらぬ姿で営業を続けています。

94 庚申堂の石仏　95 大黒屋（国登録有形文化財）

細久手宿から御嵩町境へ

この区間は、県道を過ぎると、往時の面影を色濃く残す山の尾根道を進みます。旅人が道中の安全を願って手を合わせた「秋葉坂三尊」や、御嵩町との境付近にある「里塚」「鴨之巣の一里塚」などがあります。

96 細久手の穴観音　97 平岩の石仏　98 開元院
99 秋葉坂三尊　100 鴨之巣辻の道祖神碑　11 鴨之巣の一里塚

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図及び数値地図50mメッシュ（標高）を使用した。（承認番号　平25情使、第355号）」

「諸之木峠の展望台」で、「お弁当」なんていかがでしょう。


10

瑞浪市境から御嶽宿へ

この区間は、大半が細久手宿から続く東海自然歩道の区間で、往時の姿を非常によくとどめています。

皇女和宮降嫁時ゆかりの遺構も多く、「諸之木峠の御殿場跡」や「二呑の清水」などがあります。特に諸之木峠の御殿場跡北には、遠くは南アルプスの美しい山々を一望にできる見晴らし台があり、お弁当をいただくには絶好の場所です。

謡坂には復元された一里塚や整備された石畳があります。整備された遺構にもかかわらず、何処となく懐かしさを覚えるところです。

また、本線より少し離れた所に「七御前マリアの里」があります。寄り道してみるのもいいでしょう。

西行塚や槇ケ根の一里塚あたりから続いてきた東海自然歩道は、御嶽宿を過ぎると南へ別れていきます。

1 ふじあげ坂の馬頭観音
2 津橋薬師堂の石仏群
3 津橋の常夜灯（室戸神）
4 山内嘉助屋敷跡
5 御殿場跡
6 諸之木峠の展望台
7 唄清水
8 二呑の清水
9 謡坂の馬頭観音
10 謡坂の石畳（復元）
11 謡坂の一里塚跡（復元）
11 七御前マリアの里
12 西洞の耳神社
13 西洞の寒念仏供養塔
14 和泉式部廟所
15 中街道追分の道標
2 栢森の一里塚跡


1 歌川広重の浮世絵「御嶽」

御嶽宿

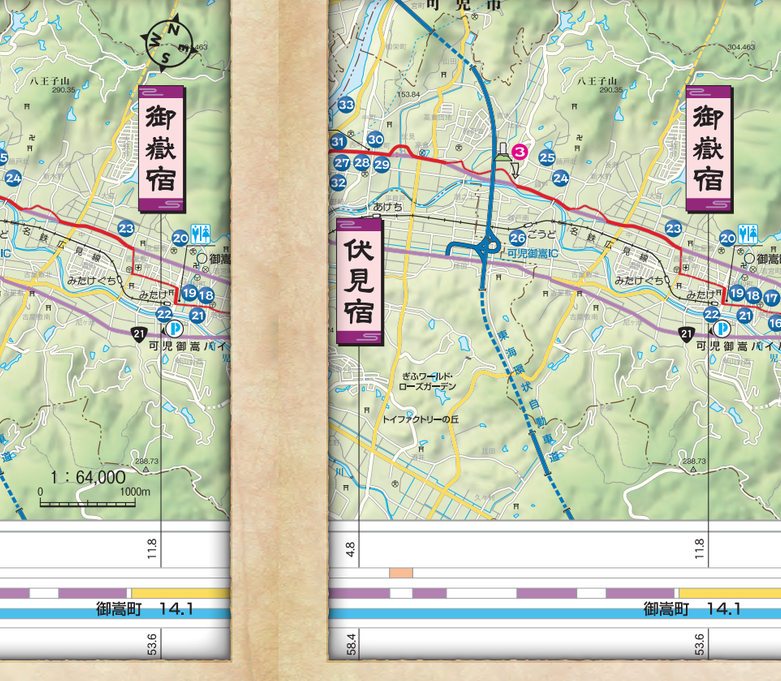
御嶽宿は、願興寺の門前町として栄え、慶長七年（一六〇二）、中山道の宿場のなかでもいち早く整備されると、人や物、情報や文化が往来し、大きな賑わいをみせました。

名鉄「御嵩駅」から東へと続く町並みには、本陣跡や商家竹屋など、往時の面影が色濃く残されているほか、なかでも宿場の西入口にある大寺山願興寺には、本堂をはじめ国指定重要文化財の仏像二十四躯が納められており、古来より続く歴史の息吹を感じることができます。

16 上町の用心井戸
17 御嶽宿の本陣跡／中山道御嶽宿商家竹屋
18 中山道みたけ館
19 願興寺
20 愚溪寺
21 御嶽宿わいわい館
22 御嶽宿さんさん広場


御嶽宿


8



現 在の国道二十一号の中、所々にかいま見る昔の面影に哀愁を感じます。


2 歌川広重の浮世絵「伏見」


36

御嶽宿から伏見宿へ

この区間は、大半が国道二十一号と重複しており、昔の面影はほとんど感じられませんが、所々国道から離れる区間では、中山道らしさが感じられます。

「鬼の首塚」、「比衣の一里塚跡」、「在原行平卿の碑」などの遺構があります。

23 鬼の首塚
24 顔戸八幡の灯籠／顔戸城址
25 比衣の播隆碑
3 比衣の一里塚跡
26 在原行平卿の碑

伏見宿

伏見宿は、御嶽宿の開宿に遅れること約九十年後に整備されました。近くには木曽川の水運を利用した新村湊から多くの物資が運び出され、賑わいをみせていました。

現在は、わずかながらに残る古い町並みや本陣跡碑などが、往時の名残りをとどめています。

また、西坂には槍ヶ岳開山で知られる播隆上人の名号碑が残され、人々の暮らしのなかにあった信仰の一端を知ることができます。

27 中山道ゆったり伏見宿
28 伏見宿の道標
29 伏見宿の本陣跡・領界碑
30 一本松公園
31 伏見西坂の播隆碑
32 女郎塚
33 新村湊跡


32

伏見宿から太田宿へ

この区間は「犬山街道の道標」以西から、太田宿（美濃加茂市）の対岸にある「今渡の渡し場」及び「土田の渡し場」までの間など、大半が可児市内を通っています。

全線国道及び市道として道路整備されており、往時の面影はほとんど残っていませんが、「今渡の渡し場」の石畳や「土田の一里塚跡」「桜井の泉」等、所々で往時を偲ぶ遺構と出会うことができます。

このあたりの渡し場は、当初は土田にあったらしいのですが、木曽川の流れの変化にともなって今渡に移動していったようです。

一里塚も「土田の一里塚」はわずかに石碑が残っていますが、「新田の一里塚」については無くなってしまいました。

34 犬山街道の道標
35 今渡・渡し場跡公園
36 今渡の渡し場跡
37 桜井の泉
4 土田の一里塚跡
38 土田の渡し場跡
39 川合の渡し場跡



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図及び数値地図50mメッシュ（標高）を使用した。（承認番号　平25情使、第355号）」

「木」曽のかけ橋 太田の渡し 碓氷峠がなくばよい」と知られた太田の渡し。



3 歌川広重の浮世絵「太田」



42

太田宿

太田宿は尾張藩太田代官所や川並番所が設置された宿場で、太田代官所は美濃国中部・東部を統括し、軍事・政治・経済の中枢を担いました。（加茂郡・恵那郡・各務郡ほか）

今に残る太田宿は、枡形を留めた街道を保ち、そこに住む庶民の生活が今も静かにたたずんでいます。宿内には「旧本陣（今は全容を見ることはできませんが、街道に面した表正門が往時の面影を残しています）」や「旧脇本陣（国指定重要文化財、隠居家のみ観覧可）」「虚空蔵堂（文豪坪内逍遙が少年時代に遊び場として過ごしたらしい）」などがあり、往時の雰囲気を味わえます。中山道会館では、太田宿の歴史を知ることができます。

また、現在の太田橋の下流にある明治初期～昭和初期の「太田渡船場跡」では、往時を偲ばせる川石の石畳の道が郷愁をさそいます。付近は化石林公園として整備されています。

40 神明堂四辻道標
43 祐泉寺の石碑
46 旧太田脇本陣林家住宅
49 虚空蔵堂
50 承久の乱・大井戸の戦い合戦地（推定）
51 天狗党総大将武田耕雲斎歌碑
4:1 太田橋
44 旅籠旧小松屋
47 太田宿中山道会館
5 太田の一里塚跡
42 太田渡船場跡
45 旧太田宿本陣門
48 川並番所跡

太田宿から鵜沼宿

この区間は大半を県道一〇七号が占め、そこから脇に入った山道でのみ、往時の様子を偲ぶことができます。

虚空蔵堂のあたりから大まや湊の道標のあたりまでの約一五キロメートルほどの間では、木曽川の堤防などのため、中山道は消えてしまっていたのです。

岩屋観音の前後でいったん県道を離れ、中山道は参道化した道を行きます。このあたりは日本ラインとして親しまれている木曽川が眼前に広がり、素晴らしい眺めを堪能できます。

中山道は木曽川を背にJR高山本線をくぐり、うとう峠へと向かう道に入っていきます。ここからは地図にも載っていないような山の中の道になりますが、現在は整備され、途中には現存する「うとう峠の一里塚」もあり、周囲は「日本ラインうぬまの森」として石畳等が整備されています。

52 大まや湊の道標
6 取組の一里塚跡
57 岩屋観音（眺望）
59 合戸池
53 大まや湊跡
55 勝山の道標
58 栗栖渡し跡
54 宝積寺の地蔵尊
56 勝山湊
7 うとう峠の一里塚



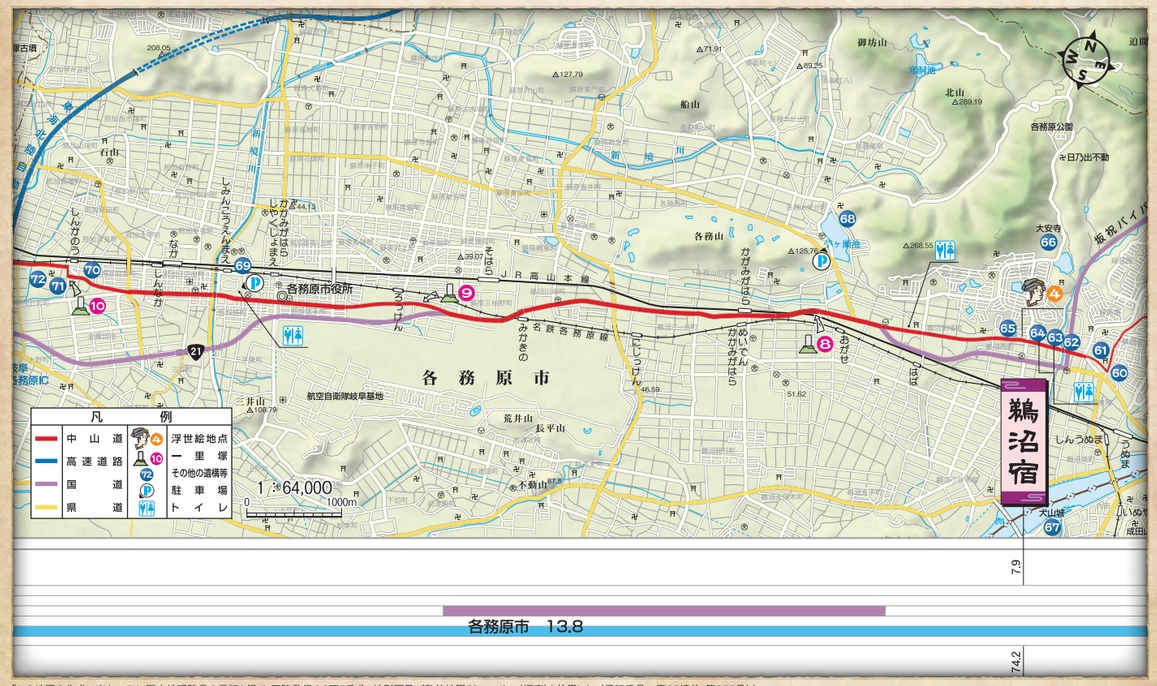
57

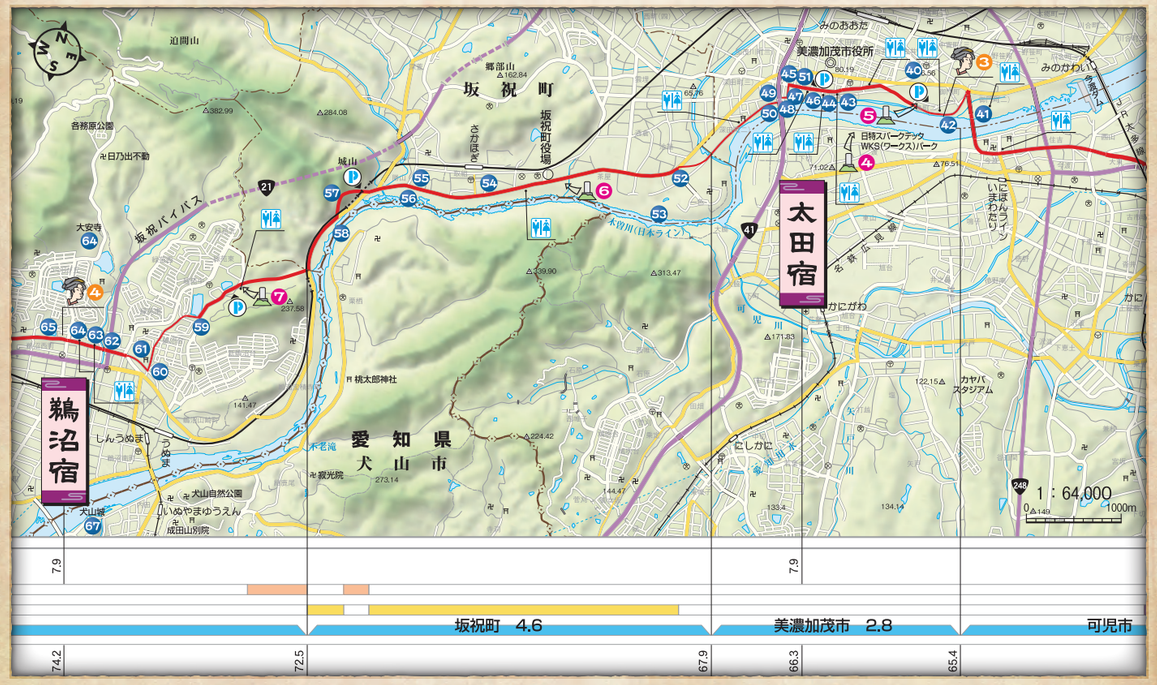


46



45





鵜沼の古い街並みから、那加の新加納立場まで、中山道の歴史を感じます。



4 英泉の浮世絵「鵜沼ノ驛従犬山遠望」



64

鵜沼宿

鵜沼宿は、江戸から数えて五十二番目の宿場です。江戸時代は尾張藩領で、南へ約二キロメートルの木曽川対岸に国宝犬山城があります。

宿内には、神社や石造物、旅籠の面影を残す住宅などが残るものの、年々、周辺の近代化が進んできました。そこで、町屋館（旧武藤家住宅）の修復、脇本陣の復原、宇留摩庵の修復、景観重要建造物（古い家並や酒蔵）の保存改修などが行われました。また建物のほか、せせらぎ水路の設置、電線の地中化、案内板の設置、道路の美装化や安全対策が図られました。

こうして、鵜沼宿は往時を偲ばせる宿場町として再生されました。今では、市の重要な観光資源として多くの人々が訪れています。

60 赤坂の地蔵堂
62 大安寺大橋
64 鵜沼宿脇本陣（芭蕉句碑）
66 大安寺
61 赤坂神社
63 中山道鵜沼宿町屋館
65 鵜沼宿の馬頭観音
67 犬山城

鵜沼宿から岐阜市境へ

この区間はほとんどが国道二十二号やその旧道と重複しているため、往時の面影を求めようとするには、非常に困難なものがあります。

かつては各務野の原野を通っていたのですが、現在は自動車の交通量も多く、商店街などの街並みに変わってしまい、中山道の面影はほとんど残されていません。

鵜沼宿から岐阜市の加納宿までは、約十七キロメートルと距離が離れていたため、旅人や馬が休憩するための立場がいくつか設けられています。中でも岐阜市境に近い新加納の立場は、近くに旗本坪内氏が陣屋を構えていたこともあり、間の宿 新加納として賑わいました。現在では近世の家並みはなくなりましたが、かぎの手になった街道や石造りの道標などに往時を偲ぶことができます。

一里塚もかつては三箇所にありました。「山の前の一里塚」は、国道とJR高山本線が交差するあたりにあったらしいのですが、現在では岩の上に石仏が安置されているだけで、「六軒の一里塚」と「新加納の一里塚」については、標識が残っているのみになってしまいました。

68 おがせ池
9 六軒の一里塚跡
70 日吉神社
71 新加納の道標
8 播隆上人の名号碑（山の前の一里塚跡）
69 伝鼠小僧次郎吉墓
10 新加納の一里塚跡
72 新加納陣屋公園



10



62



7

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図及び数値地図50mメッシュ（標高）を使用した。（承認番号　平25情使、第355号）」

加 納城の城下町として、美濃十七宿の中で最大の宿場を誇った加納宿



1 歌川広重の浮世絵「加納」

各務原市境から加納宿

岐阜市内の中山道は、現在舗装されていますが、全体的に道すじや幅員はほとんど変わっておらず、街中とはいえ歴史を感じさせる家並み、道標、寺社なども見ることができます。

このあたりは低湿地を通ることもあって、周りより少しでも高い自然堤防や、扇状地の先端部を選ぶような道すじを通っています。

「切通陣屋跡」や「領下の地蔵堂の道標」などがありますが、驚くことにこの街中に「細畑の一里塚」が両塚とも現存しています。

1 手力雄神社
2 手力雄神社の鳥居と道標
3 切通陣屋跡
1 細畑の一里塚
4 領下の地蔵堂の道標

加納宿

加納宿は中山道の宿場の中でも城下町に隣接した数少ない宿場で、美濃十七宿の中で最大規模の宿場でした。

宿内は鍵状に折れ曲がっており、随所に道標や碑があり、往時を偲ぶことができる区間です。

国の史跡にも指定されている「加納城の本丸跡」からは、遥か金華山を望むことができます。斎藤道三、織田信長ゆかりの岐阜城を見ながら、往時を思い浮かべるのも一興です。

5 関取鏡岩の碑と道標
6 八幡神社の褒神
7 安良町の道標
8 加納宿東番所跡
9 南広江の道標
10 加納城大手門跡の石碑
11 中山道加納宿まちづくり交流センター
12 加納城跡
13 加納宿西番所跡
14 本町の千手観音

加納宿から河渡宿へ

加納宿から鏡島の街までの間は、残念ながら往時の面影を残すものはほとんど残っていません。「一里塚跡の碑」や中山道より少し南に下った菊池神社にある「往来の松の石碑」で往時を偲ぶしかありません。

鏡島地区は、長良川の鏡島湊で栄えた街であり、鏡島弘法と親しまれている「乙津寺」など、所々往時の面影を残すような家並みも見られます。

この近くには、今では大変珍しくなってしまった渡し船が、まだ残されています。この「小紅の渡し」から見る金華山もなかなか風情があって楽しいものです。

2 一里塚跡の碑
15 往来の松の石碑
16 乙津寺
17 小紅の渡し
18 鏡島湊



17 歌川広重の浮世絵「鵜飼船」



12 現在の中山道



1 現在の中山道

17 現在の小紅の渡し



伊 吹山を正面に望みつつ、厳しい「伊吹おろし」の中を進みます。



2 英泉の浮世絵「河渡長柄川鵜飼舩」



3 歌川広重の浮世絵「みえじ」

河渡宿

河渡宿は長良川の渡しで栄えた宿場です。当時洪水に苦しんでいたこの宿場は宿全体の地上げ工事を行い、その「記念碑」が、かつて「河渡の一里塚」があったあたりに残っています。

残念ながら河渡宿は、第二次大戦による焼失や長良川河川改修によって、往時を偲ばせるような旧家は一軒も残っていません。

19 河渡の渡し
20 河渡の馬頭観音
3 一里塚跡の河渡宿改修記念碑

河渡宿から美江寺宿へ

この区間の道すじは少しの変異もなく、今日自動車の行き交う賑わしい道路としてそのまま活用されています。

特に「本田の延命地蔵」のある瑞穂市本田の地区は、比較的古い街並みが残っており、往時の雰囲気を感じることができます。

21 馬場の石地蔵
22 本田の延命地蔵

美江寺宿

美江寺宿は、長良川の「河渡の渡し」や、皇女和宮ゆかりの小簾紅園がある揖斐川の「呂久の渡し」を控えて栄えた宿です。

古くは十一面観音を本尊として７１９年に「美江寺」が創建されたことに由来する地名で、現在の宿場は、中央部にある美江神社でＬ字型に屈曲する姿や本陣跡が残されています。

4 美江寺の一里塚跡
23 美江寺観世音
24 美江寺宿本陣跡
25 美江寺城跡
26 熊野神社の春日局ゆかりの地碑

美江寺宿から赤坂宿へ

この区間は伊吹山を目指しながら西へ進む区間です。厳しい「伊吹おろし」も迎えてくれるでしょう。

当時の揖斐川は呂久の集落の西側を流れていたのですが、大正時代の河川改修のため、現在の流れに変わり、呂久は揖斐川の対岸の集落になってしまいました。この呂久には皇女和宮ゆかりの「小簾紅園」があります。

「柳原の一里塚」は、珍しく中山道沿いから離れた一里塚で、平野井川の対岸神明宮付近にありました。

神戸町と大垣市の境辺りの中山道は、くねくねとうねっており、遺構はほとんどないものの、往時の雰囲気を味わうことができます。

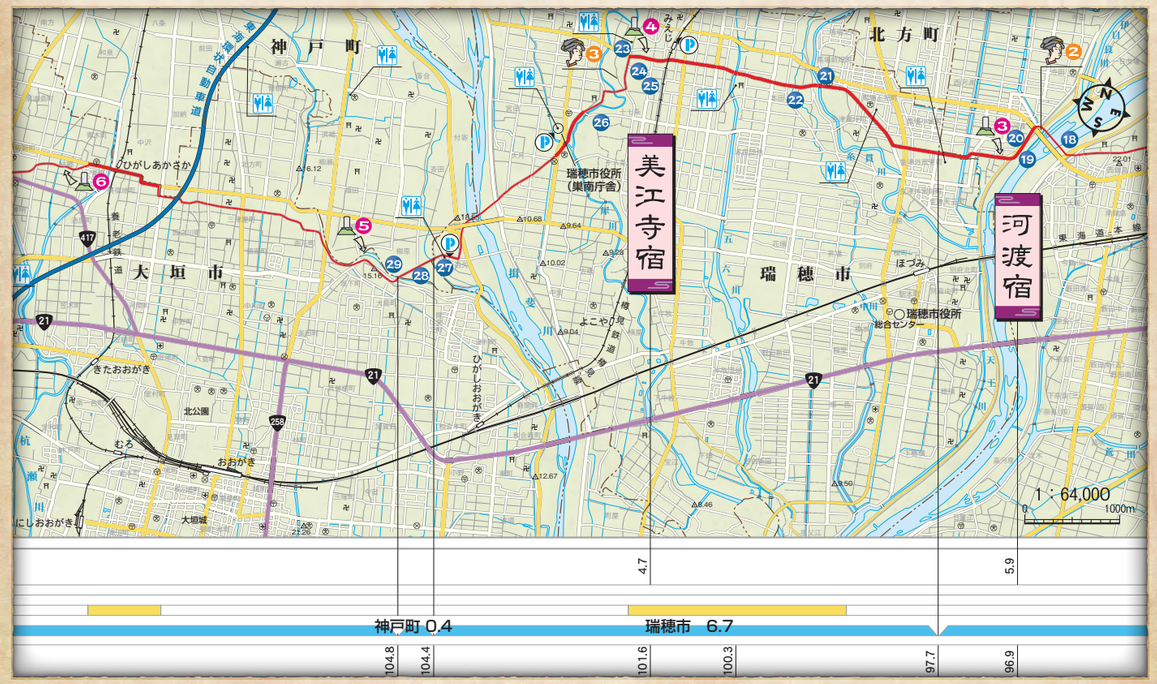
5 柳原の一里塚跡
27 小簾紅園
28 呂久の渡し
6 池尻（枝郷）の一里塚跡
29 坂下の道標



27 小簾紅園



23 美江寺観世音



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図及び数値地図50mメッシュ（標高）を使用した。（承認番号　平25情使、第355号）」

南 宮さんや谷汲さんに見守られてきた西濃地方。美濃国分寺跡があります。


4 歌川広重の浮世絵「赤坂」


5 歌川広重の浮世絵「垂井」

赤坂宿

赤坂宿は、旧杭瀬川の「赤坂港」や谷汲山の巡礼で賑わった宿です。

宿内は昔らしい街並みが見られ、将軍専用の休泊所であった「お茶屋屋敷跡（現在はボタン園として有名）」や「赤坂港跡」「本陣公園（本陣跡）」など整備された遺構も多く、往時を偲ぶことができます。

30 赤坂港跡　31 旧清水家住宅　32 本陣公園（赤坂宿本陣跡）　33 谷汲街道の道標　34 赤坂宿の馬頭観音　35 お茶屋屋敷跡（ボタン園）　36 勝山（家康本陣跡）　37 金生山化石館　38 明星輪寺（国重文　木造地蔵菩薩半跏像）　39 安楽寺

赤坂宿から垂井宿へ

この区間は比較的当時の雰囲気を漂わせる区間です。

「昼飯大塚古墳（県内最大の前方後円墳）」「円興寺（紅葉の名所）」「美濃国分寺跡」などの史跡があります。

また、中山道からはずれますが、垂井町の追分から名古屋方面へと向かう「美濃路」には、五十本ほどの松並木が現存しており、当時の面影が偲ばれます。

40 昼飯大塚古墳　41 円興寺（国重文　木造聖観音立像）　42 照手姫水汲井戸　7 青野の一里塚跡　43 美濃国分寺跡　44 平尾御坊の道標　45 石橋の地蔵堂と馬頭観音　46 美濃路の松並木　47 追分の道標

垂井宿

垂井宿は美濃路の追分を控え、南宮大社の門前町として賑わった宿場です。

宿内は鍵状で古い街並みも見られ、往時を偲ぶことができます。

また「南宮大社の石鳥居」や「垂井の泉」などの史跡があります。

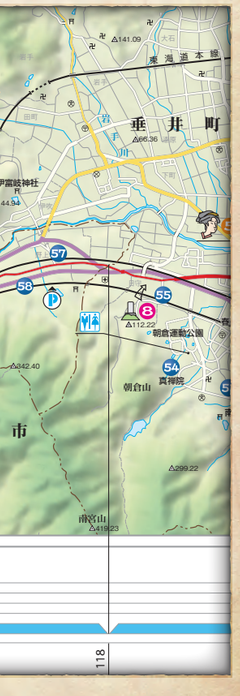
また、美濃国一の宮「南宮大社（社殿十八棟が国重要文化財）」のほか、「本龍寺（山門は脇本陣のものを移築）」「真禅院（三重塔・本地堂が国の重要文化財）」など、見どころもたくさんあります。

48 旧旅籠亀丸屋　49 紙屋塚　50 南宮大社の石鳥居　51 垂井の泉　52 本龍寺　53 南宮大社　54 真禅院


51


40


30









「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図及び数値地図50mメッシュ（標高）を使用した。（承認番号　平25情使、第355号）」

中 山道美濃路の終点。私たちを戦国の世へと導いてくれます。


6 歌川広重の浮世絵「関か原」


7 歌川広重の浮世絵「今須」

垂井宿から関ケ原宿

この区間は国道二十二号と交差しながら、ほぼ平行して進んでいきます。

「垂井一里塚」は、中山道全線の中でも数少ない、国の史跡に指定されている「里塚のうちの一つで、隣には茶所があり、昭和の初めまで休憩所としてにぎわっていました。また「野上の松並木」は、岐阜県内の中山道ではここにしか残ってない貴重な松並木です。

55 日守の道標　56 野上の松並木　8 垂井一里塚とお茶所跡　57 伊富岐神社大鳥居　58 六部地蔵

関ケ原宿

関ケ原宿は今も昔も交通の要所であり、難所の今須峠や北国街道、伊勢街道などを控えて賑わった宿場です。

本陣は現存していませんが、脇本陣は当時の門が名残をとどめています。

59 関ケ原宿の脇本陣跡

関ケ原宿から今須宿

この区間は壬申の乱や関ケ原の合戦など、日本の歴史の分かれ目となった舞台の中を進んでいきます。

「不破関跡（古代三関のひとつ）」「若宮八幡宮（壬申の乱で敗れた大友皇子を祭る）」「常盤御前の墓（源義経の母）」などの遺構があります。

当時の難所だった今須峠は、今も冬になると交通の難所になってしまうほど急坂です。

60 不破関跡　61 不破関の句碑ほか　62 若宮八幡宮　63 矢尻の井と地蔵堂　64 鶯の滝　65 常盤御前の墓　9 今須の一里塚

今須宿

今須宿は、中山道美濃十六宿の最西端の宿場です。

今も静かな佇まいの宿内には、町有形文化財である「今須宿問屋場（旧山崎家住宅）」や「常夜灯」などがあり、当時を物語っています。

66 妙応寺　67 今須宿問屋場（旧山崎家住宅）　66 今須宿の常夜灯

今須宿から滋賀県境

中山道美濃路の最西端の区間です。

「車返しの坂（途中で途絶えてしまっている）」や「寝物語の碑」などの遺構が「寝物語の碑」の先に小さな側溝があります。この側溝が「美濃国」と「近江国」の国境で、数々の伝説と遺構を残した中山道美濃路の終点です。

69 車返しの坂　70 寝物語の碑

67

8